

## 1 背景とねらい

東北農試が開発中の戦略的村づくり支援手法「TN法」に着目し、この「抽出（地域住民から活性化対策を求める）」、「選択（その対策に対する住民の優先度を定量的に明確にする）」の各手法を一連の手法となるように改良を加え、集落の活性化計画策定を行ったところ、地域住民の合意形成が促進されるなど、農業改良普及所等がむらづくり活動を支援する際の有効な手段となることが確認された。

このことから、これをマニュアル化し、さらに選択過程をリアルタイムで定量的に処理するシステムを開発したので、指導上の参考事項に供する。

## 2 技術の内容

この手法は、地域住民から地域活性化のためのアイデアを抽出する過程とこのアイデアに基づく活性化対策を地域住民が選択する過程からなる。

### (1) 住民アイデア抽出過程

- ① 地域住民からなるアイデア抽出チームと関係機関からなるサポートチームを結成し、各種情報の収集・解析を効果的に実施する。
- ② アイデア抽出チームの各メンバーは、個別思考と集団思考（他のメンバーから新たなアイデア発想のための刺激を受ける）の各ステップなかで、他のメンバーに気がねすることなくアイデアをカードに記入して提出する（CBS法の改良）。

### (2) 活性化対策選択過程

- ① サポートチームは地域住民のアイデアに基づき、地域住民（アイデア抽出チーム）と協議を重ね、活性化対策体系を作成する。
- ② AHP（階層構造分析法）により、活性化対策体系の個々の対策に対する地域住民の主観的な意識（重要度）を定量的なウエイトとして算出する。この定量化を迅速に行い、その結果を住民にリアルタイムでフィードバックするためのパソコン上のシステムを開発した。各住民のウエイトを地域全体で集計し、重要度を求めることで、地域としての対策の優先度が示され、住民の集団的意志決定を支援することができる（図参照）。

### (3) 地域活動活性化対策及び地域住民合意形成の深化

実践性のある対策を展開するためには、(2)で明らかになった住民の重要度を基に地域で検討を重ね、重要度の高い対策や階層・属性により重要度の異なる対策について具体的な対応策（手段）を求めることが必要となる。この場合、さらにテーマを掘り下げて、(1)にフィードバックすることが、地域住民の合意形成を深める点からも重要となる。

### (4) 適用範囲

この手法は広範囲の地域や地域活性化計画以外の多様な意志決定場面にも適用可能である。

## 3 指導上の留意事項

- (1) 一般的手順を示したものであり、当該地域の実情に応じて変更して対応すること。
- (2) サポートチームは、抽出チームに対する情報提供や各過程における結果のフィードバックに努め住民の意志決定過程を重要視すること。
- (3) 抽出チーム（一対比較回答者）のメンバーは10人程度が望ましく、人数が多くなる場合はグループ分けすることが望ましい。選定に当たっては、性別、年齢別、地区別、階層別に多様なアイデア（広範な定量化）が出るようにすること。また、当該地域住民だけでは、アイデアが偏る危険性もあるので、サポートチームのアイデア抽出も有効であること。
- (4) アイデア抽出・分類に当たって、コーディネーターは重要な役割を負うことから、農業改良普及所、市町村、農協職員などが当たることが望ましいこと。
- (5) システムは、市販の統合型ソフトを用いて作成したので、利用する場合はMS-DOSと統合型ソフトを購入すること。

- ・使用機器 コンピュータ本体 (NEC PC9801シリーズ), ディスプレイ, プリンタ
- ・使用ソフト Lotus 1-2-3 R2.1J plus

#### 4 試験成果の概要

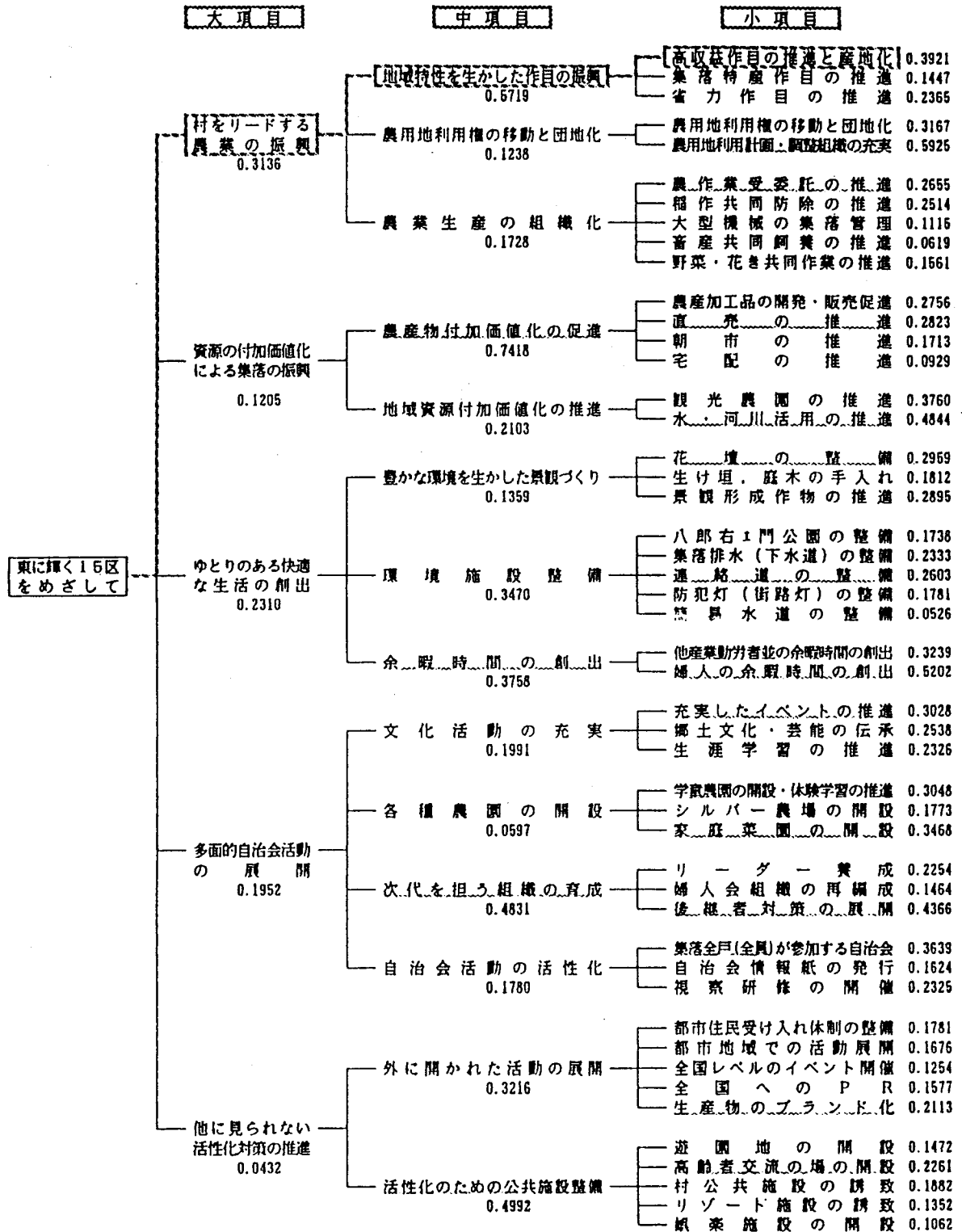

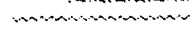


図 M村第15区活性化対策別重要度 (集落代表10名の平均)

 は、最も重要度が高い対策をつないだもの  
 は、その他の各グループの中で最も重要度が高いもの